

## 令和7年度 第3回 府中市都市再生協議会

### 【議事概要】

#### ○開催日時

令和8年3月26日（木） 10時00分～11時00分

#### ○開催場所

府中市役所4階 第一委員会室

#### ○出席者

岡辺重雄（会長）、田中貴宏（副会長）、加藤誠章、若井紳壮、小寺旭、宇田雅英、  
宮口泰彦、掛江賢治、木下善雅、高森真司  
梶村隆穂（アドバイザー）

#### ○内容

①府中市立地適正化計画改定について

#### ○主な議論

（会 長）都市計画という仕組みが導入された時代は人口増加により都市の拡大が行われてきた。現在では、人口減少に転じており、居住、都市機能の立地について検討するなどコンパクト・プラス・ネットワークを目指した都市経営が必要な時代となっている。

そのため、委員の皆様とともに検討してきた府中市立地適正化計画においては、公共交通や防災など個別計画と連携を取りながら、まちづくりの基本的な方向性をとりまとめるとともに、立地適正化計画を踏まえ具体的な施策を検討・実施することとしている。

今回示された立地適正化計画改定版に対し、委員の皆様からご意見等あれば願います。

（委 員）計画書では、公共交通の重要性が示されている。都市計画審議会において府中地区を東西方向に運行するバスの運行ルートが国道486号に変更することで利用者の増加が図られると考えられるため、検討いただきたいと意見した。当該意見に対する府中市の考えとして、「運行ルートの検討については、どのルートが最適か府中市の全体の公共交通を踏まえて、今後も検討を重ねていく。」と記載されているが、現在の検討状況を伺いたい。

また、ぐるっとバスの運行ルートに府中市内で2番目に人口の多い、

中須地区が含まれていない理由も伺いたい。

(事務局) ぐるっとバスは、生活中心街の拠点駅である府中駅から各拠点施設へのアクセス性や歩いて暮らせるまちづくりの視点を踏まえ、現在の運行ルートを設定している。特定の地域を運行ルートから除外することを意図して運行ルートを設定したわけではない。

道路ネットワーク及び公共交通等、市民の移動の在り方については、これまでも事務局内で検討しており、府中市立地適正化計画改定版においても具体的な方針を示している。引き続き、関係課と連携して推進・検討していくため、具体的な実施時期については本計画では記載していない。

今後も市内、または広域的な移動の在り方について検討を進めることで、移動の利便性向上につなげていきたい。

(会長) 今回の計画を検討する中で、中須地区の重要性が示された。今後は、府中市立地適正化計画改定版を踏まえて、個別計画である府中市公共交通計画に反映させることが望ましい。

また、委員には、地域住民の協力なども重要なため、機運醸成に努めてもらいたい。

(委員) 第2章の府中市の現況と課題において、人口について整理されているが、世帯構成の変化も踏まえ、世帯数の整理を追加するのはどうか。現状では、都市機能誘導区域（公共公益施設拠点型）に含まれる小地域では、世帯数が、減少している一方、都市機能誘導区域（居住サービス集積型）に含まれる小地域では増加となっていることから東部エリアの居住ニーズが高いことが分かる。

(事務局) 今回の改定では、年代別の居住人口を用いて整理・分析しており、世帯数の整理・分析は行っていない。今後、計画を見直す際に世帯数の整理・分析についても検討する。

また、居住誘導区域の現状を確認する資料として、資料編として取りまとめることを検討する。

(会長) 人口増加時代には、世帯数が住宅の数の確保を検討する指標として利用されてきた。現在では、人口減少・高齢化に伴い単身高齢者世帯の増加も見られることから、世帯数だけではなく、世帯構成や住宅の建築動向等も踏まえて、分析しないとミスリードになることが懸念される。

(委員) 府中市は人口減少しているため、学校の統廃合の方向性についても本計画に含めることを検討いただきたい。

(事務局) 学校施設は、地域の重要な拠点であると認識している。また、上下地区においては、学校施設の再編などの取組も進められていることから、学校施設を所管する教育委員会と協議を行い、立地適正化計画の内容について共有を図っている。引き続き、学校の在り方と本計画の都市のあり方について、連携し、取り組んでいきたい。

(委員) 人口の推計方法を見直されたとのことだが、面積按分は、メッシュ内に均一に分布していることが前提であるが、実態は均一ではないため、誤差が生じることがある。今回は、大きな問題とされない認識でよろしいか。

(事務局) 人口の値は推計値となるが、傾向を把握する目的のため、大きな問題とされないと認識している。

(会長) 推計に使用するメッシュの範囲が広い場合は、誤差が大きくなるが、今回使用しているメッシュは 100mメッシュのため、大きな問題とされないと考えられる。

(会長) 本日、立地適正化計画のとりまとめでもありますので、委員の皆さまから一言ずつ、今回の府中市立地適正化計画改定の全体プロセスにおいて、ご意見ご感想があれば伺いたい。

(委員) 今回の計画改定では、防災に着眼して計画策定を行ったと感じている。今後は、電気、ガス、道路などインフラの維持管理や災害時の対応についても検討することが望ましい。  
また、新型コロナウイルスによる出生数の減少が人口動向に影響を与えたと考えられるため、その影響も踏まえて今後も検討を行っていただきたい。

(会長) 今回の改定では、策定時に不十分であった防災の検討が主な議題の 1 つであった。今後も検討を深めより良い計画となるよう検討を続けることが望ましい。

(委員) 府中市立地適正化計画改定版において示された各エリアの誘導方針に基づき、今後、子育て、医療、福祉分野などの個別計画での施策が拡

充されることを期待する。

(委員) 府中市立地適正化計画改定版で定められた5つの都市目標を達成するため、特に防災や少子化問題を真剣に考えていく必要がある。また、福山市へのアクセスの改善を図る事業の推進など人口流入となる環境整備に取り組んでいただきたい。

(委員) 道路整備や防災インフラの整備を推進することで、立地適正化計画で示した将来像の実現につなげていきたい。

(委員) バス停の新設には、道路の占有許可や設置する周辺の住民の理解も必要であるとともに、補助等を活用していることも踏まえながら、検討している。

公共交通は人の移動を支えるネットワークの1つのため、立地適正化計画を踏まえて、今後もバス停の拡充や運行ルートの検討を進めていく。

(会長) バスの運行事業者だけでなく、住民、民間事業者などが協力して進めないと円滑に事業として進まないため、様々な主体の協力が重要である。

(委員) 立地適正化計画は、各主体が連携して役割を果たさなければ実現できない。事務局として、今後の意気込みや抱負を伺いたい。

(事務局) 府中市立地適正化計画策定時では、モニタリングが十分とは言えなかったと感じている。今後は、目標指標の確認や各事業の進捗状況を把握し、各部署と連携して具体的な施策につなげていきたい。

(委員) 今回の改定で防災指針を策定し、災害リスクを踏まえた計画となっている。但し、生活中心街には災害リスクが残存するため、今後もハード対策を進めるとともに、ソフト対策による住民の防災意識向上などを継続していただきたい。

(委員) 令和7年度第1回府中市都市計画審議会において、今後の府中市のまちづくりに対する多様な意見が出された。今回の府中市立地適正化計画改定版を指針として、各主体と連携してまちづくりに取り組むことが望ましい。

また、変化の激しい時代のため進捗管理は定期的に行うことが必要で

ある。

(会 長) 今回の改定において、もう一つ大きく方針が示されたのが、上下地区のあり方であった。上下地区は、人口減少してしまった地域でもある中で、今後の上下地区のあり方は地方都市ならではの活力の実現について非常に重要な検討であったと思う。計画書に加えて、事務局として、上下地区に対する意気込み等あれば伺いたい。

(事務局) 上下地区では、今ある魅力的な地域資源を活用しながら、地域全体の活性化や地域コミュニティの維持を図っていききたい。また、中心部だけではなく、市北部の地域全体を見通しながら、より一層、関係課と連携しながら、施策に取り組んでいきたい。

(アドバイザー) 府中市立地適正化計画改定では、市民に分かりやすいようデザインや構成を工夫されていると感じた。

また、委員からモニタリングの重要性が指摘されていることも踏まえ、国土交通省が作成するまちづくり健康診断も活用してモニタリングを行っていただきたい。

(会 長) 委員より本計画の方向性に関して大きな修正意見がなされなかったため、細かい表現の修正の確認は私に一任いただけないでしょうか。

(岡辺会長に一任することが了承された)

以上